

# 向学館通信

2008・5・27

## 漢字や英語の単語などは毎日コツコツと！

短い時間でも、毎日続けることが大事な科目があります。国語の漢字や英語などの勉強は、一度にまとめて長時間やってもあまり成果は上がりません。中学生には英文の暗記をさせていますが、これも毎日コツコツ続けよう！

## 「計算力をつけると算数（数学）に強くなる」は本当か？

近年、「百マス計算」などの計算力をつけるための本が書店でも、いっぱい並んでいます。マスコミなどの影響でしょうが、計算力をつければ算数や数学の基礎力が鍛えられると信じておられる親御さんが子供たちにこうした学習をさせておられるようです。

向学館に来た生徒の中にも、他塾で算数の中身がほとんど「計算」であったという人がこれまでかなりいました。こうした生徒たちの多くは、算数の文章題や図形、応用問題にはかなり手こずっていました。どちらかといえば、計算はできるが、算数は苦手になっていたのです。小学校でも、算数の中に占める「計算」の割合は、低学年では大きいのですが、高学年になるほど比重は下がってきます。中学生以上になると、数学は大部分、計算ではなく論理的に考えることと図形的な能力が大きな比重を占めてきます。だから、小学生のときに計算練習に必要以上の時間と労力をかけてきた人は、中学では数学の力は伸びにくくなります。

計算は、もともと大して能力を使うようなことではありません。これに対して数学は、精密に論理を追いかける力や、抽象的なことを理解する力など、計算とはまったく比較にならない能力が必要です。この能力は、小学生のときにその基礎が形成されるようです。その能力形成の一番大事な時期の、小学4～6年生の間に、論理的な思考力をほとんど鍛えず、単純な計算ばかりに時間を費やしていればどうなるか、だいたい想像がつくでしょう。

当塾では、計算はほどほどにして、できるだけ「考える」問題をやらせようようにしています。中学校、高校と、先に行って伸びる基礎力を小学生の間から育成したいからです。

## 小学生から作文が上手になった人は豊かな能力が身につく

当塾では長年、作文指導をしてきました。作文は、初めは、何かの文章を読んで、それを要約することから練習します。要約する文章は、2～3ページの短い文や、10ページ以上の長い文章など長さはいろいろです。また、内容は、自然環境をテーマにしたものや、人々の生活や活動をテーマにしたものもあります。社会問題や経済の統計などをみて文章を書くこともあります。新聞の投書欄にのっている読者からの投稿を読んでもらって、それについての感想を書く、といった方法も行います。

このような作文指導によって、生徒たちがどんな能力を伸ばしていくのでしょうか？

- ①いろいろなテーマの文章を読みこなすことで、知識が豊富になります。それまでは関心もなかった領域にも関心を持つようになって、知的好奇心も広がります。
- ②文章を要約するという事は、読解力をきたえる最善の方法です。文章を読んで、その要点が的確におさえられるということは、読解力の高さを表すことでもあります。要約することで、知らず知らずのうちに本を読みこなす力をつけていきます。
- ③長い文章を読むのが平気になる。これはすばらしい能力だと思います。最近は、理科や社会の教科書もろくに読めない子がたくさんいます。中学生に、定期テストの前に理科や社会の勉強は教科書を読むのが一番だと言っても、読んできちんと理解できる人は、そんなに多くありません。教科書さえ読めない子が増えているなかで、読書力がついているのは、大きな実力差がついていることです。

小学5年くらいで作文が上手になった子は、中学に進んでからも、あらゆる科目にいい成績を修めています。作文練習は、文章がうまくなるだけでなく、いろんな面の基礎力向上に大きな役割を果たしているといえます。